

熊打ち

森岡 正作

他国より集ひて冬の湖国詠む
奥山に分け入るやうに落葉踏む
熊打ちの手柄は犬に譲りけり
ひと叢もあれば程よき石落の花
寒鯉を割けり愚直な出刃包丁
熱爛や敗者たること自認して
部屋少し暗きがよろし薬喰

カラオケの

掲句（カラオケの歌ひ納めとなり
にけり）を見つけたのは偶然であつたが、登四郎先生にこんな御句があつたとは愉快なことで、平成十年、八十七歳の作である。当時はカラオケ全盛で祝宴などの会場には、当然のようにカラオケが置かれていた。思えば八十歳を過ぎた先生にカラオケを教えたのは中原道夫さんである。ある時「大トリ登場」と言われて現れたのが先生で、その背中にびつたりとくっついていたのが中原さんであった。恰も二人羽織のようにして唄ったのが、何と美川憲一の「柳ヶ瀬ブルース」だったと記憶している。満場大拍手喝采、笑い転げる人もいたのであるが、その後も中原さんの指導よろしく都はるみ、堀内孝雄などと歌の領域を広められたのである。先生はよく「古い」という言葉を発せられたが、先生の「進取」の精神、あるいは「負け嫌い」の性格が、カラオケの場でも発揮されたのだと思う。